

特集 図書館の人はどんな本を読んでいるの？

のぞきたくなる 30 の扉

前回のラポール第 29 号で、本学学生の西田さんから「今度は司書さんたちが選んだ本を読みたい」というリクエストをいただきました。

そこで今回は、図書館スタッフがテーマを出し、それに図書館スタッフが答えるという形式で、次の 3 テーマについて 10 冊ずつご紹介します。

テーマⅠ おいしい本

テーマⅡ 大学生の頃に出会っていれば、私の人生変わったかもという本

テーマⅢ ショートショート（短編集）の本

ラポール第 30 号にちなんだ 30 冊の本は、さまざまな世界とつながる 30 の扉です。

のぞきたくなる扉は見つかるでしょうか？

図書館スタッフのプロフィール

赤石 知香



担当業務▶雑誌の注文やデータベースの契約などを担当しています。
好きな作家または愛読書▶好きな作家 原田マハ

H・Y



担当業務▶カウンター業務や図書業務を担当しています。
好きな作家または愛読書▶こだわりはなく、内容重視派です。

葛西 鈴香



担当業務▶カウンター業務や雑誌・新聞の受入などを担当しています。
好きな作家または愛読書▶好きな作家 ミヒャエル・エンデ

K・M



担当業務▶文献複写の依頼と受付等、図書館同士の相互協力業務。
好きな作家または愛読書▶犬猫等の動物が主役の本が好きです。

M・K



担当業務▶図書館スタッフの執事（ばあや?）。カウンター業務もしています。
好きな作家または愛読書▶好きな作家 ヒグチユウコ

山田 奈々



担当業務▶ガイダンスや図書の注文などを担当しています。
好きな作家または愛読書▶好きな作家 ウィリアム・アイリッシュ

Y・H



担当業務▶図書館のポスター・チラシ作成、返却図書・雑誌・新聞の配架を担当しています。
好きな作家または愛読書▶星新一の短編集（午後の恐竜、白い服の男 等）

おいしい本①



みんなの献立表
天然生活ブックス
地球丸
498.5||F94

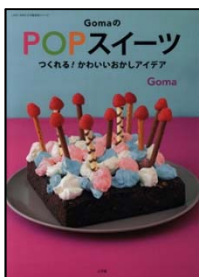


子どもの頃は当たり前だと思っていた「わが家の価値観」。大人になるにつれ、それが全てではないと知りますが、食事って、そのすごくわかりやすい例のように思います。友達の家に遊びに行き出てきたご飯やおやつ。自分の家との違いを感じた経験がある人は、案外多いのではないのでしょうか。

私は、幼い頃の夕食に麺類が出た記憶がありません。毎日、食卓にはご飯とお味噌汁が並んでいました。そんなわが家では、鍋のメにうどんやパスタを入れるというお楽しみも無かったのです。(ちなみに、今は麺類 OK です。)

食に対する考え方は人それぞれですが、よその家ではどんな食事をしているのか、見る機会がないからこそ、興味があります。もっと食事を楽しみたい！だからこそ、他の人の食事も参考にして、自分の食に対する価値観を広げたい。そんな私はこの本が好きです。

この本は、ただのレシピ本ではありません。料理家やパン屋さん、会社員の自宅飯から小さな会社の手作り社食まで、いろいろな人の 1 週間の食事が紹介され、中には助産院のご飯や昔の給食まで載っています。献立はもちろん、お皿の使い方なども個性があって面白く、「こういうのもアリなんだ」という新しい発見がありました。毎日の献立に煮詰まっている人、家での食事を楽しみたいという人にオススメです。



GomaのPOPスイーツ:つくれる! かわいいおかしアイデア

Goma
LADY BIRD 小学館
小学館
596.65||G62



公共図書館で何気なく、お菓子の本のコーナーをぶらぶらしていたら見つけた本です。表紙にひかれてパラパラとめくってみたら、見た目が楽しいお菓子ばかり！特に気に入ったのが、つぶしたサツマイモとプリッツ(またはスライスアーモンド)でつくるハリネズミスイートポテトです。

材料が手に入りやすく、作るのが簡単なものばかりです。食べたい作りたい、というよりもっと写真を眺めていたい、そんなおいしい本です。

(ちなみにハリネズミスイートポテト、作ってみました。プリッツを焦がしてしまい、見事に失敗してしまいました。)

おいしい本②



モモ:時間どろぼうと、ぬすまれた時間を人間にとりかえてくれた女の子のふしぎな物語

ミヒヤエル・エンデ
大島かおり訳
岩波書店
943.7||E59



たちに、ホラの家である「どこにもない家」を包囲されてしまったとき。そんなピンチな状況でも、朝食は欠かしません。

この朝食のシーンを読んでいると、無性にホットチョコレートが飲みたくなります。こんな朝食を、お休みの日にゆっくり食べられたらなあと思いながら、チョコレートを切らしていたため、代わりにホットココアをすする真夜中なのでした。

「時間とは、生きるということ、そのものなのです。」という『モモ』の名言がありますが、おいしく食べることも生きることに繋がるものだと思います。

主人公のモモは、カメのカシオペアに連れられて、時間の国へと辿りつきます。そして、そこで出会ったマイスター・ホラから朝食をごちそうになります。その朝食は黄金に輝く素敵なものでした。パリパリに焼けたパンに黄金色の蜂蜜やバター、そして温かなホットチョコレート。モモはこの朝食を食べて、人々の時間を盗んだ灰色の男たちへ立ち向かいます。ちなみに、この朝食シーンは二度出てきます。一度目はモモが時間の国へ着いたとき。二度目は灰色の男



和菓子のアン
坂木司
光文社
913.6||Sa31



全部で5章に分かれており、基本的に1章毎に話は完結しています。「和菓子」をテーマに様々な方向から話がつくってあります。

和菓子の世界を知ることができ、マンガのような個性豊かな登場人物たちがわいわいと活躍していきます。とても魅力的で楽しめるストーリーです。そして私は読み終えた後に和菓子が食べたくなくなりました！

一つひとつの和菓子にメッセージがこめられており、コミュニケーションの手段にもなる和菓子という存在が日本らしい奥深さを感じる小説になっています。

デパ地下にある和菓子のお店でアルバイトとして入店した梅本杏子が主人公で、杏子の心の中での突っ込みなども随所に書かれていて、全体的にテンポがよく、読みやすい文章です。

おいしい本 ●



ランチのアッコちゃん
柚木麻子
双葉文庫
双葉社
913.6||Y99

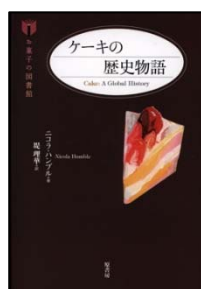


書名の一部に名前こそあれ、この小説の主人公はアッコちゃんではありません。恋も仕事もうまくいかず、いつも自分に自信のない女の子。そしてアッコさんは彼女の上司、いつも肩で風を切って歩くバリバリのキャリアウーマンです。威厳がありすぎて取っつきにくいアッコさんが、1週間だけ主人公の手作り弁当とアッコさんの外食ランチの交換を提案（というより命令）してきました。そういえばアッコさんお昼休みはいつもいないけど、どうしてるのかな……。

アッコさんは、恐る恐る一步を踏み出そうとしている主人公の背中を、押すのではなく思いつきどついてくる存在です。

いただく側でも作る側でも、食べるということが人とのつながりを作るのですね。どんなに高価な食材で素敵なランチョンマットを敷いたところで、誰かと楽しく食べること以上の味付けはないのかもしれない。

この本には続編が2冊あり、読み進めると鉄面皮のアッコさんの横顔も見えてきますよ。



ケーキの歴史物語
ニコラ・ハンブル
堤理華訳
お菓子の図書館
原書房
383.8||H98



タイトル通りケーキの歴史が語られていますが、ケーキのいろんな事柄に詳しくなれるケーキの雑学本です。

資料として掲載されているきれいなイラストや写真は見るだけでも楽しくなります。

ケーキはいつ頃誕生し、私達が食べているおいしいケーキになったのはいつから？ 国によってケーキの風味が違うのはなぜ？ これはケーキと呼べるものなの？ ウエディングケーキはいつ誕生したの？

こういった疑問他、パイはケーキなのかパンなのかといういまだ続く議論、ケーキという名称をめぐりで裁判沙汰になったという驚きの事実が記載されています。

ケーキが深くかかわる文学作品も紹介してるので、そちらも読みたくなってしまいます。

ケーキ作りが趣味の人は巻末に各国のケーキのレシピが載っているのでどうぞ。

読んでる最中でも、読み終わった後もケーキが食べたくなる一冊です。

おいしい本 ④



アノスミア:わたしが嗅覚を失ってからとり戻すまでの物語
モリー・バーンバウム
ニキリンコ訳
勁草書房
936||B46



むのは初めてで、私にとって二度も三度もおいしい本となりました。

また、カバーイラストのとおり料理やレストランに関連したエピソードが多く、現代アメリカの食を垣間見ることができることも興味深いです。

私たちが感じている味は、ほぼ香り。

薄々感じていたものの、なかなか信じられない事実でしたが、この本で思い知らされました。

著者はシェフを目指す20代女性。交通事故により嗅覚を失ってしまったことから料理人への道が危うくなり、なんとかして嗅覚を取り戻そうと調べたことが書かれています。彼女が集めた情報の膨大さに圧倒されます。情報収集は文献や医療機関の受診に留まらず、さまざまな研究者にも会いに行き、ノンフィクション作家としても有名なあの先生も登場します。その先生について第三者が描いたものを読



バベットの晩餐会
イサク・ディーネセン
榎田啓介訳
ちくま文庫
筑摩書房
949.73||D76



話の筋はこんな感じですが、バベットがやってくる前にマチューとフィリップにはそれぞれ若いころの恋物語があります。この恋物語が話の大筋に大きく関わってきます。このバベットの晩餐会は映画にもなっていて、おそらく原作は知らなくても映画は知っていると人のほうが多いかもしれません。

百年祭の準備中、バベットが用意する食材の中に見慣れない珍味を見て、姉妹が青ざめる場面が気の毒ですが少しくスツとしてしまいます。

ノルウェーのフィヨルドにあるベアレヴォーという小さな町が舞台のお話。

その町に住む今は亡き監督牧師の姉妹マチューとフィリップのもとへ、パリからすべてを失い亡命してきたバベットという女性がやってくる。

姉妹の家政婦として見事な働きぶりから姉妹や町の住人に受け入れられ、十四年の月日が経ったころ、バベットにフランスの1万フランの宝くじが当選し、バベットが監督牧師の百年祭にフランス料理を作らせてほしいと頼んできた。

おいしい本 ⑤



おばけのてんぷら
ら
せなけいこ
ポプラ社
726.6||Se57



私はせなけいこさんの絵はもちろん世界観や色使いが好きで、小さい時から大好きな絵本が多く、その中の1つです。

料理レシピ本大賞 2017 絵本賞を受賞作品です！

美味しそうに揚げられた天ぷらを見てお腹が空きますが、それ以上に天ぷらを作っているうさこの表情やふわふわ感、自分のメガネまで天ぷらにするゆるーい愉快的姿に癒されます。

自分のお小遣いをはたいて天ぷらを作るうさこが健気で可愛らしく、昔ながらの風景や台所を見ると小さいころを思い出して懐かしい気持ちにもなります。いつもてんぷらが食べたくなくて、家では食べないれんこんのてんぷらに憧れていました。

そして小さい子に、夕方なのにどうしておばけがいるのか、裏表紙のおばけが夜なのに山の上で寝ているのはどうしてかと聞かれたことがあります。小さい子どもにとって突っ込みどころもあって楽しめ、大きくなっても私のようにずっと大好きで楽しめる一冊だと思います。



眼球綺譚
綾辻行人
集英社文庫
集英社
913.6||A98



突然ですが、イナゴの佃煮はお好きですか？ イカの口の干物はお酒が進みますね。煮魚の眼球も美味ですよ！この3つ全部が好きという方には、なかなかお会いできないですね。

こちらの短編「特別料理」の内容は、「悪食」の一言に尽きます。とあるレストランを紹介された主人公は、妻を連れてとても珍しい食事をいただきます。サナダムシのスパゲッティー、トノサマガエルの卵入り杏仁豆腐など、その響きだけでも奇妙でグロテスクな料理の数々。

しかし、主人公は「いま俺は〇〇〇を食べているのだ」という確かな実感を持ってその料理をいただきます。始めはメニューを気味悪がり、躊躇していた妻も、いつの間にか料理の虜になっています。いつしかレストランの常連となった主人公は、レストランの中でも最高ランクであるスペシャル・メニューをいただくこととなりますが……

今回は「特別料理」にクローズアップしましたが、他短編もミステリー、ホラー風味があって魅力的です。

大学生の頃に出会っていたら、私の人生変わったかもという本 ①



英語で話す「日本」Q&A

Bilingual books
講談社インターナショナル

830||Ko19

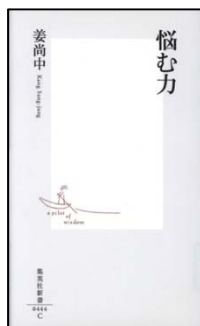


初の海外旅行先で、現地の方が私に、お箸の持ち方や柔道の作法、どんな果物が取れるのか、などなどの質問をしてくれました。私は答えようとして、案外日本について知らない自分に初めて気付きました。海外旅行あるあるですね。

英語で日本や日本の文化を説明する本は多数ありますが、英語以外の言語の本は残念ながらまだ少ない状況です。もし英語が苦手でも、まずは英語で説明するポイントを押さえれば、他の言語への変換が比較的楽になりますので、

こういう本があることを覚えておくと外国の方と雑談するときに余裕ができるかも？

私の場合は、英語がなんとなく苦手でしたが、図書館では仕事で英語を使わなければいけない場面がたまにあり（外国の図書館からの論文コピーの取り寄せ、外国の出版社への著作物使用許諾依頼、外国雑誌の契約書の内容確認など）、英語はちょっぴり楽しいと思うようになりました。



悩む力
姜尚中
集英社新書
集英社
159||Ka43



この本は、「悩むことを肯定してくれる本」です。

悩むことが常になっていると、「どうして自分はこんなに悩んでしまうのだろうか」と悩む自分が嫌になることもあります。私も若い頃、堂々巡りのように悩んだ時期がありましたが、この本に出会い、悩むことは決して悪いことではない、むしろ人として大切なことだと肯定してもらえたことで、少し視界が開けたのを覚えています。

自我と自己チュー、働くことの意味、愛や死への向き合い方など、掘り下げると大変なことになりそうで、つい目を背けがちな問題について、著者はマックス・ウェーバーと夏目漱石を手がかりに論じています。その主旨は、中途半端にせず、まじめに悩み抜くことの大切さです。自己チューに「自分」の世界を主張することや、自分を守ろうと城を築くことの愚かさを指摘し、人とのつながりの中でしか自分を見出すことはできないと述べています。著者のように悩み続けることは正直しんどいので真似ることは難しいですが、悩んで深みにはまったら、気晴らしに読んでみてください。少し気持ちが楽になるかもしれません。

大学生の頃に出会っていたら、私の人生変わったかもという本 ●



君たちはどう生きるか

吉野源三郎原作
羽賀翔一漫画

マガジンハウス

159.5||Y92

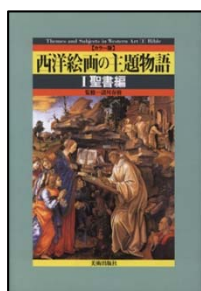


1937年に出版された小説が、昨年漫画化され話題となった本です。この本を読むと、時代とともに人々の暮らしは変わっても、人そのものは大して変わらないことを改めて思い知らされます。

このお話は、主人公のコペル君とおじさんとのやりとりが中心となって流れていきます。コペル君のお父さんは亡くなる寸前に、出版社に勤めるおじさんに願いを託します。息子には立派な人間になってほしい、息子と同世代の子ど

もたちに伝えるべきことを本にしてほしい。その願いを叶えるため、お父さんに代わって、おじさんはコペル君に大切なことをノートに書き綴り伝えていくのです。

貧困、いじめ、心の弱さ。人間の負の部分に直面したコペル君はそれとどう向き合っているのか。正しい生き方を求めているからこそ、過ちを犯した時に自分を責め続け苦しむコペル君。そんなコペル君をおじさんは甘やかすことなく、エールを送ります。立派な人間とは何か、正しい道はどこにあるのか。この本を読みながら、考えてみてはいかがでしょうか。



西洋絵画の主題物語 I 聖書篇

諸川春樹

美術出版社

723||Se19||1



皆さんは西洋の宗教画というと何を思い浮かべますか？聖母子像？受胎告知？最後の晚餐？

キリストとマリア以外にも謎のおじいさんや妙齢のお姉さん等、日本人にはあまり馴染みのない聖人が数多く描かれているのをご存知でしょうか？

この聖人たち、よく見るとそれぞれ目印を持っているのです。聖ロレンツォは鉄格子、聖カタリーナは車輪、聖ルチアはお盆に載せた目玉。実はこれ、各聖人の殉教と深い関係

があります。ロレンツォは火あぶり、カタリーナは車引きの刑、ルチアは目をくりぬかれました。この本は、各聖人を絵画を用いて解りやすく説明してくれます。

さらにはキリストの生涯についてもしかり。最後の晚餐前にキリストが弟子達の足を洗う場面は、腕ききの足揉み屋に列をなす男たちそのものです。

絵の内容を理解すると、その楽しみ方は倍増します。私はこの本で、西洋の宗教画の面白さを知りました。夢は絵画修復師！しかし時すでに遅し。心を込めて図書館の本を修理する毎日です。

大学生の頃に出会っていたら、私の人生変わったかもという本 ③



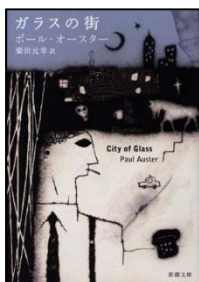
走れ！助産師ボクサー
富樫直美
NTT 出版
495.9||To21



働きながらサイバー大学に通っていた私は学業と仕事の二足のわらじに忙殺され、内心やさぐれていました。大学卒業後、格闘技を始め、ほどなくしてこの本を目にしました。助産師でボクサー、なんとなく気になるフレーズでした。

あの頃は忙しくて教科書や参考書以外、ろくに読書ができませんでしたが、その時もしこの本が出版されていたら、もっと前向きに学業も仕事も頑張っていたかもしれません。(ちなみに著者の通称は「戦う助産師」、かっこいいですね。)

感化されたおかげか否か、今でも私は格闘技もたしなみつつ、夢だった仕事を続けられています。



ガラスの街
ポール・オースター
柴田元幸訳
新潮文庫
新潮社
933.7||A96



アメリカ文学を全く読んでいなかった大学時代の自分に勧めたい作品です。

『ガラスの街』、『幽霊たち』、『鍵のかかった部屋』——この三作品は、ニューヨーク三部作として知られています。というのも、全ての作品がニューヨークを舞台に繰り広げられるためです。この三つの物語が、交錯し、複雑に絡み合い、謎が謎を呼び……というわけではありませんが、解けない謎が読者の心に蟠ることは確かでしょう。

『ガラスの街』では、主人公のクインが自宅にかかってきた間違い電話をとることから物語がはじまります。電話で探偵に間違われたクインは、依頼を受けることにするのですが……主人公の運命やいかに。

こちらはニューヨーク三部作の一作目にあたります。まずは『ガラスの街』から読むことをお勧めします。少なくとも、『鍵のかかった部屋』を読む前に読んでみてください。逆に、『ガラスの街』を読んだのなら、『鍵のかかった部屋』を読むことをお勧めします。物語の結びつきを見つけられるかもしれません。



幽霊たち
ポール・オースター
柴田元幸訳
新潮文庫
新潮社
933.7||A96



ポール・オースターとの最初の出会いは、この『幽霊たち』でした。何かの書評に掲載されていたこの作品が、図書館でふと目に留まり、何気なく借りてみたのがことの始まりです。

主人公である探偵のブルーは、謎の男ホワイトから奇妙な依頼を受けます。それはブラックという男を監視するというもの。依頼を受けたブルーはブラックの住む建物の真向かいで彼を見張り続けますが……ブラックとは一体何者なのか。

ブラックの監視を依頼したホワイトの目的は何か。そして長い監視生活を続けていく中で、ブルーが下した決断とは。

「探偵」、「奇妙な依頼」——そんなワードが気になるミステリー好きな方には残念ですが、こちらは探偵小説とは異なる部類になります。（かくいう私も、そのワードに魅かれた口です）読み進めるごとに、謎が解明されてすっきりするどころか、非現実感ばかりが増してしまいます。ただ、その非現実感に浸るのも、悪くないですよ。



鍵のかかった部屋
ポール・オースター
柴田元幸訳
白水Uブックス
白水社
933.7||A96



ニューヨーク三部作の最後の作品になります。妻と原稿を残して失踪した幼馴染。彼を探す主人公は……

ニューヨーク三部作において、依頼を受け、誰かを探す／監視するも、追い詰められていくのは主人公たちでした。ニューヨークという迷路を彷徨いながら、彼らは答えを見つけられるのでしょうか？

三作品全てを読み終わった後の虚脱感がすごいです。ポール・オースターに興味を持ち、ニューヨーク三部作と一緒に彼の他の著作を何冊か購入したのですが、手に取って本を開くことを何だか躊躇ってしまいます。

それだけ、ニューヨーク三部作は印象強い作品でした。印象強いからこそ、大学時代に出会っていたら、きっとその後に読みたいと思う作品は変わっていたと思います。そうなっていたなら、私は今、どんな本を読んでいたのだろう。そんなことを考えながら、机の上に積まれた未読の本とにらめっこするのでした。

大学生の頃に出会っていたら、私の人生変わったかもという本 ⑤



恋愛引き寄せノート:「でも」「だって」がログセだった私が変われた!

西原愛香
KADOKAWA
152.1||N82



私は、そんなに思い通りにうまくいくわけがない、と始めは否定的な感情の方が強かったのですが、この本を読んでいた友人が、徐々に今までとは変わってきているのが私にはわかりました。そして友人は「出会いの多かった学生の頃にこの本に出会っていたら、今と状況が変わっていたに違いない!」と言っていました。

私もこれから本気でこのノートを実践してなりたい自分の理想の姿に少しでも近づいて素敵な出会いもあればいいなと思っています!

半顔メイクで話題を集めた人気ブロガー桃さんの友人である西原愛香さんの本です。

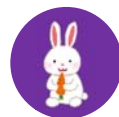
タイトルから恋愛のことかと思いますが、違います!最後のあたりは恋愛に悩む方々へのことがまとめられていますが、全体を通してみると、自分自身のことを見つめ直し、なりたい自分に近づいていくものです。実践的で、自分の気持ちを大切にすることに気づかせてくれます。

中も可愛らしくて、西原さんの人柄が出ているようでした。



うまくいっている人の考え方 ジェリー・ミンチントン

弓場隆訳
ディスカヴァー携書
ディスカヴァー・トゥエンティワン
159||Mi39



うかかもしれませんが、そのまま読み進めてください。読み終えた時に自然に前向きになろうと思えるはずですよ。

私が習慣化したいと思ったひとつは、「自分が心から楽しめることをするための質の高い時間を30分確保する」です。忙しくても、1日1日を大事に丁寧に過ごす、そして自分を大事にすることが必要だと改めて思いました。

人生は一度きりなので、暗い気持ちで過ごすより、笑って明るい気持ちで過ごす方がいいですね。

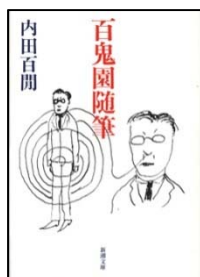
累計100万部突破した話題の本です。

作者は、経営者としてビジネスをやっていくうちに、自尊心を高めて人の価値を上げることで成功や幸福が訪れることに気づき、研究をしました。そこで自尊心を高める方法を100個公開したものが載っています。

自分の長所と、恵まれている環境にあることだけに意識を向けることで自分自身が磨かれ、プラス思考になっていくそうです。

ポジティブになりたい人・自分に自信が持てない人にお勧めしたいです。こんな風に前向きに考えられない!と思

ショートショート（短編集）の本 ①



百鬼園随筆
内田百間
新潮文庫
新潮社
914.6||U14||1



書名を見るとその中身だけでなく、どんな状況で読んだかが鮮明に蘇ることがあります。

「この小説はあの旅行に連れてって、バスの待ち時間や寝る前に読んだんだっけ。」「この推理小説はいろいろ忙しくて頭が混乱してた時で、余計に心が乱れたよなあ。」

この随筆集はとある図書館のトイレ近くの薄暗い文庫棚から見つけ、友人と会う電車の中で読み始めました。夏目漱石の門下生で個人全集まで出ている人なので高尚な文学者

と思いきや、随筆の内容も長さもまちまち、とにかく自由でおかしみにあふれていました。

図らずもこんなものを見つけてしまったうれしさとワクワクに、秋の始まりの澄み切った青空と、電車の車体のアルミが反射するキラキラが絡み合い、とても幸せな気分になったことを覚えています。

ちなみにこの方、大の猫好きでもあります。飼っていた猫が姿を消してからの悲しみをメソメソと書き綴り「ノラヤ」という本にしてみました。猫好きの向きはご一読あれ。



おはなし・ねこあつめ
汐月 遥
集英社
集英社
913.6||Sh77



少し前に流行ったアプリゲームのノベライズ版です。このゲームにはストーリーもなければ、エンディングもありません。エサと遊び道具を置いて、ただひたすら猫が来るのを待つ、眺めるだけ。そんなゲームのノベライズなんて面白いの？なんて思われるかもしれません。

結論から言いましょう、8つの短編、全てが面白いです！ファンから見ても納得の内容です。

挿絵が豊富で猫がかわいいのは勿論、ほっこり癒されたり、笑えたり、じ〜んとしたり、児童向けの本と侮るなかれ、忙しい大人にこそ読んでほしい短編集です。猫が好きな人にもおすすめです。

ショートショート（短編集）の本 ②



夢い羊たちの祝宴
米澤穂信
新潮文庫
新潮社
913.6||Y84



後味が悪いお話なので、好みが分かれると思います。
読書好きのお嬢さんたちが主人公の短編集です。彼女たちが読んでいるさまざまな作品名が登場します。「この本読んだなら、あの本も読んだ？」と友達と話しているような感覚になります。
ところで、短編集を読んでいたら、そのうちの1編だけは読んだ記憶がある…ということはありませんか？その短編が収録されていたアンソロジーのタイトルが思い出せなくて気になる（若者のみなさんはそんなことはないかもしれないけど）、そんなときは「Webcat Plus」！ (<http://webcatplus.nii.ac.jp/>) まず、その短編のタイトルで「一致検索」をします。次に、詳細画面を開いて「掲載作品」の中から気になった短編をクリックすると、その短編が収録されている本が表示されて便利です。



われはロボット: 決定版
アイザック・アシモフ
小尾美佐訳
ハヤカワ文庫
早川書房
933.7||A92



「ロボット工学三原則」で言動を制限されているはずなのに、おかしなふるまいをするロボットたちの謎を描いたSF短編小説集です。
SFがなんとなく苦手という方も、AIの開発により現実がSFみたいになってきていますので、今なら違和感なく読めるかもしれません。
この短編集の一部は映画化されたのでご存知の方も多いかもかもしれませんが、短編集の原題は”I, robot.”、映画のタイトルも「アイ、ロボット」でした。日本語訳の本は、訳者によって『われはロボット』、『わたしはロボット』、『アイ・ロボット』等とタイトルが異なり、おもしろいです。訳が思っていたのと違う…というときは、CiNii Booksのような図書館系サイトや書店サイトで原題をキーワードにして検索すると、日本語訳もまとめてヒットするので探しやすいですよ。

ショートショート（短編集）の本 ③



**妻を帽子と
ましがえた男**

オリヴァー・サックス

高見幸郎

金沢泰子訳

ハヤカワ文庫

早川書房

493.7||Sa12

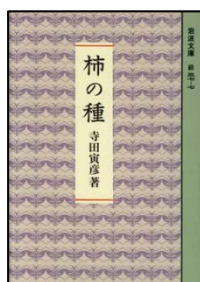


タイトルはナンセンス SF かミステリーっぽいですが、背ラベルの1段目は「神経科学、精神医学」の分類番号です。そう、『レナードの朝』で有名な神経学者による、さまざまな症状の患者さんのノンフィクション短編集なんです。

この本を手にとったきっかけは、保健大学の図書館でした。

図書館では、シラバスに掲載されている教科書・参考書を1冊ずつ指定図書コーナーに置いています。学期ごとにシラバスをチェックして、新しい本を指定図書コーナーに入れたり、教科書・参考書の指定から外れた本を移動したりします。

あるときこの本が指定図書から外れたため、同じ著者の『レナードの朝』を借りてみたところ、読みやすい文章で描き出された人間の体の不思議さに衝撃を受け、涙し、サックス先生のファンになりました。そこで、今度はタイトルが気になっていたこの本も読んでみたわけです。内心、また泣かされるのは嫌だなあと思いながら。



柿の種

寺田寅彦

岩波文庫

岩波書店

914.6||Te43



大学時代に「読書論」という講義を受講し、そこで理工学部の先生がお勧めしていた本になります。『柿の種』というタイトルを聞いたとき、お酒の好きな私は、おつまみとしてもおいしい某お菓子を想像しましたが、どうやら果物の種のことのようにです。

作者の寺田寅彦は、物理学者であり随筆家、俳人でもありました。『柿の種』は彼が俳句雑誌などに書いた短文をまとめたものになります。日記の断片や短文など、ひとつひとつ

は短くも、中身はバラエティパックのように幅広くその味を楽しめます。

作中には彼が描いた絵や歌（なんと、楽譜付き）が載っています。猫の絵や、彼が飼っていた猫「三毛」のための歌、そして猫の尻尾を観察する短文もあるので、彼は猫好きだったのでしょうか？ するすると読み進んで、いつの間にか終わってしまう、そんな作品です。一日一編でも。夜眠る前にでも。旅行の移動中にでも。心にゆとりがあるときに、いかがですか？

ショートショート（短編集）の本 ④



鏡のなかの鏡： 迷宮

ミヒヤエル・エンデ
丘沢静也訳

岩波現代文庫
岩波書店
943.7||E59



こちらは30編の短編からなる連作集になります。物語は前の物語を歪んだ鏡像として映し出します。物語を読み進むごとに、鏡像はどんどん形を変えていきます。鏡の中の鏡は歪んで映し出されてしまうのです。最後まで読み終わっても、物語は最初の物語へと繋がり、気が付くと、読者は迷宮に迷い込んでしまいます。そこに出口はあるのでしょうか？ 物語には、前後の物語と何らかの繋がりがありません。例えば、同じようなものがあつたり、見覚えのあるような人物がいたり、同じようなフレーズが出てきたり——蜘蛛

の糸のように細い繋がりを追って、迷宮を彷徨ってみましょう。

各物語ひとつひとつも面白いです。「婚礼の客は踊る炎でした。」では、蠟の城で行われる婚礼の中、踊る炎と溶解していく蠟のイメージには美しさを感じます。「惑星の回転のようにゆっくりと」では、「君」がいる閉ざされた世界から、見知らぬ世界へと足を踏み出すその瞬間まで、目が離せません。何度も読み返したい作品です。さて、迷宮の出口は見つかるでしょうか。



自由の牢獄 ミヒヤエル・エンデ

田村都志夫訳
岩波現代文庫
岩波書店

943.7||E59



表題でもある「自由の牢獄」を含めた8つの短編集になります。絵画に描かれた地を目指す男が辿りつく先は——「遠い旅路の目的地」。不思議な通廊を目にした夫婦の手記——「ボロメオ・コルミの通廊」。郊外の家を探索する兄弟が見たものとは——「郊外の家」。とある一家が暮らす小さな車へ入った男が開けた扉の向こうには——「ちょっと小さいのはたしかですが」。カタコンベ（洞窟）から外へ足を踏み入れた影の民の話——「ミスライムのカタコンベ」、都市開発計画で行方不明になった者を探す依頼を受けた旅人は、

生きる都市を見つける——「夢世界の旅人マックス・ムトの手記」、無数の扉の中から一つを選ばなければならない男の選択は——「自由の牢獄」、本当の故郷を求め、幾度なく名を変えた男は見つけたものは——「道しるべの伝説」。

この中でも「遠い旅路の目的地」と「道しるべの伝説」が好きです。「だれでもないもの」はあるべき場所へ辿りつきます。主人公が非情になり、道を外すような場面もありますが、彼らの強い思いが奥底に秘められていて、胸を打ちます。

ショートショート（短編集）の本 ⑤



新美南吉童話集

新美南吉
岩波文庫
岩波書店

913.8||N72



皆さんおなじみ、小学生のころ国語の授業にでたごんぎつねの作者の短編集です。

「ごんぎつね」と「手袋を買いに」は知らない人はいないと思います。

ふと懐かしくなって、また読んで見たいと思ひ手にした本です。

有名な二つのお話のほか、時代の移り変わりの切なさを書いた「おぢいさんのランプ」「最後の胡弓弾き」。五人の盗人たちにおきた不思議な出来事「花のき村と盗人たち」。

他「赤い蠟燭」「久助君の話」「屁」「うた時計」「ごんごろ鐘」「牛をつないだ樁の木」「百姓の足、坊さんの足」「和太郎さんと牛」「狐」が収録。

私が一番印象に残ってるのは最後の胡弓弾きです。最後、長年苦楽を共にした胡弓への未練が痛いほど伝わってきます。ラストに戸惑ってしまうお話も多いですが、人情あふれるいいお話ばかりです。

子どものころ読んだお話でも、大人になってから読むとまた違った味わいがあります。



ノックの音が

星新一
新潮文庫
新潮社

913.6||H92



「ノックの音がした。」という文章からお話が始まっています。

短編の内容にはサスペンス、スリラーからコメディとまであるので、いろいろなお話が楽しめます。本を読むのが苦手…という人でもすんなり読めると思います。

怖い話が好きな私的には「暑い日の客」「金色のピン」「人形」がお気に入りです。

他「なぞの女」「現代の人生」「夢の大金」「和解の神」「計略と結果」「職務」「しなやかな手」「感動的な光景」「財産への道」「華やかな部屋」「唯一の証人」「盗難品」が収録。

気軽に読めるのに、お話ひとつひとつに深い味わいがある魅力的な本です。